

令和4年度「高等学校 家庭総合」(教科:家庭科) シラバス

沖縄県立泊高等学校(夜間部)

科目	家庭総合	単位	2	年次	3	
使用教科書	高等学校家庭総合(東京書籍)			副教材等	プリント	

学習の到達目標	<p>①「生活の科学と文化」という視点から、総合的な考え方・取り組み方を習得して視野を広げ、生活の充実をはかる。</p> <p>②生活なかで課題を見出し、それを解決するための手立てを考えるとともに、次のステップの実践へとつなげていく。</p> <p>③自分らしい生活観・価値観を創造してゆくなかで、自分の個性に合ったライフスタイルをつくる。</p> <p>④コンセプトとしては、「生涯発達」の視点から、家族や生活の営みを人の一生とのかかわりのなかでとらえ、主として次のア～オに重点を置く。</p> <p>ア. 男女共同参画社会への対応</p> <p>イ. 少子化への対応</p> <p>ウ. 高齢化への対応</p> <p>エ. 消費行動および環境問題への対応</p> <p>オ. 食に関する学習の充実</p>
---------	--

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
前期	4	2章 育つ・育てる 第1節 子どもの発達 1. 胎児は母体とともに	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を取りあげる。 ・胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性和生命の尊さへの認識を深める ・母子保健については、子どもの発達にかかわる学習を中心とし、妊娠・出産の詳細には深入りしないように留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プリント学習 ・定期考査
		2. 子どもの心身の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。 ・子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを認識する。 ・新生児、乳児、幼児それぞれの時期の特徴について理解する。 ・乳幼児の食環境の大切さについて理解を深める。 ・家庭で起こりうる事故について知り、未然防止の大切さについて考えを深める。 	
		3. 子どもの成長と保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の健康の保持増進をはかるための健康調査、育児相談、予防接種などの概要を把握し、その重要性について理解を深める。 ・暮らしのなかでの基本的な生活習慣の形成、遊びによる社会性の習得について理解する。 	
		4. 生活習慣と遊びによる発達。	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びは子どもの生活の大部分をしめており、遊びをとおして子どもの心身の発達や健康の保持・増進がなされていることを理解する。 ・乳幼児の発達の面から遊びの意義や児童文化財について考える。 	
		第2節 親の役割と保育 1. 親と子—共に育ちあう関係	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は、人間形成の基礎となる重要な時期であり、特に親とのかかわりによる「愛着」の形成は、その後の信頼関係づくりのうえで重要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プリント学習 ・定期考査
	5	2. 親と子のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の第一義的な責任は親にあることを認識するとともに、子どもの人間形成にかかわる親の役割について理解する。 ・子育てを問題なく進めるには、子育ての悩みやストレスを解消することが必要であり、そのためには家族の協力が大切であることを知る。 ・情報化・国際化にともなって社会が複雑・多様になるほど、親と子のコミュニケーションの重要性が増すことについて理解する。 	
		3. 家庭保育と集団保育	<ul style="list-style-type: none"> ・現代における家庭保育の特徴を知るとともに、家族間のきずなと子どもへの働きかけの大切さを知る。 ・家庭保育との比較のなかで、集団保育の意義や、現代社会における保育のあり方、特徴を理解する。 ・子どもの発達と環境とのかかわりについて認識し、これからの保育のあり方について考える。 	

期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
前期	6	第3節 子どもの福祉 1. 子どもを取りまく現状と課題 2. 子どもの人権と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・少子社会のもとでの子育て支援について考え、よりよい保育環境を保障するために、地域や社会が果たす役割について考える。 ・子どもの権利条約にもとづいて、子どもの人権や福祉についての理解をはかる。 ・国際社会に生きる者として、男女差別や人種差別のない社会をめざし、共に生きることの大切さを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プリント学習 ・定期考査 グループ討議「児童虐待と子どもの人権」
		3章 豊かな生涯へ 第1節 高齢社会の進展と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。 ・元気に活躍する高齢者について具体的な事例を取り上げ、エイジレス社会について考える。 ・ノーマライゼーションの実現のためには、私たち自身がどう考え、取り組んでいけばよいかという実践的な態度を身につける。 ・加齢にともなう身体機能の変化について理解し、身体的自立を援助することについて考える。 ・高齢者の健康意識について知るとともに、優れた知力について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プリント学習 ・定期考査
		1. 高齢社会を迎えて	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加の一例として、地域活動や生きがい事業について考える。 ・シニア体験などへの取り組みをとおして高齢者の身体状況への理解を深め、「相手の立場や気持ちを思いやることは、自分を大切にすること」について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア体験 (体験レポート提出)
		2. 元気な高齢者と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の生活状況を把握し、心身両面からの支援が必要なことを知る。 ・高齢者世帯の生活費について知り、公的年金制度や経済的な支援について考える。 ・介護を必要とする高齢者の実態について理解し、高齢者の自立支援について考える。 	
		第2節 高齢者の生活と福祉 1. 高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への社会福祉について考え、支援システムとしての社会保障制度について理解する。 ・介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。 ・地域の介護サービスの状況について調べ、実践していく態度を養う。 	
		2. 高齢者への社会的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって自立とは何かを考え、すべてを援助するのではなく、「待つ・見守る」ことの大切さを理解する。 ・高齢者の介護とは何か、支援するにはどうすればよいか、について考える。 ・高齢者の自立を支援するうえでコミュニケーションがいかに大切かを認識し、その基本的な方法について理解する。 	
	7	第3節 高齢者の自立と介護 1. 高齢者にとっての自立とは	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支援する立場から、生徒どうしの「実習」として取り組む。ここでは、高齢者施設での「介護」ではなく、身近な高齢者に対する「介助」を扱う。 ・高齢者の日常生活動作としての「移動」などを実習し、介助の基本的な知識と技術を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験（教p. 67, 体験レポート提出）
		2. 介護の実際		
		第4節 装う 第1節 人と衣生活 1. 季節・気候・風土と衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の儀礼や祭りに着用される民族衣装には、それぞれの地域の気候・風土とのかかわりがあることを知る。 ・わが国では、四季に応じて被服が着用されてきたことを理解する。 ・着物というわが国の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努めるとともに、自由な発想で着こなし、個性を表現できる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プリント学習 ・定期考査
		2. 衣生活の課題をめぐって	<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル産業の発達にともない、現代の私たちの被服のほとんどが既製服化している現状を知る。 ・情報化によって世界中のファッション情報の入手や購入が容易になり、既製服の原産国も多様になって、衣生活が国際化している現状を理解する。 ・近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 	

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
後期	9	3. 生活のなかの被服の役割	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能には、保健衛生的機能と、社会的・文化的機能があることを理解する。 人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。 被服のもつ保健衛生的な機能や社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。 	
		第2節 被服材料 1. 被服材料の種類	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り上げて確認する。 繊維の性質や糸・布の構成などによって布の風合いが異なることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート プリント学習 定期考査
		2. 被服材料の性能	<ul style="list-style-type: none"> 着心地に影響する布の保健衛生的性能について理解し、どのような布が着心地がよいかを考える。 繊維の性能を改善するために施されている加工について、その目的や用途を知る。 さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。 	被服材料の実験 <ul style="list-style-type: none"> 織り・材質の観察 燃焼による判別 吸水性の観察 (実験レポート提出)
	10	第3節 被服の選択と管理 1. ライフステージと被服	<ul style="list-style-type: none"> 被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくことを理解する。 ①乳幼児期、②学童期・思春期・青年期、③高齢期の3つに分けて衣生活を学んでいく。 被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い絵表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。 取り扱い絵表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解する。 デメリット表示などその他の表示の例や意味を知る。 	事例調査「被服の品質表示、取り扱い絵表示」
		2. 被服の選び方 3. 被服の手入れ	<ul style="list-style-type: none"> 被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。 洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。 家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 衣服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。 	
	第4節 被服の構成と製作 1. 被服の構成と成型	<ul style="list-style-type: none"> 冠婚葬祭などのフォーマルウェアとして着用されている「和服」と、西洋から入ってきた「洋服」との違いを知る。 和服に代表される平面構成と、洋服に代表される立体構成との違いを調べ、特徴を理解する。 着用する人の用途にあわせてデザインを決めることのできる成型と被服の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート プリント学習 定期考査 	
	2. 体型・採寸・製作手順	<ul style="list-style-type: none"> 着用している被服のほとんどが既製服化している。自分の身体寸法にあわせて、既製服を正しく選ぶための採寸の寸法を学ぶ。 衣服の原型について説明できるようにし、実測値を衣服の製作へ結びつけられるようにする。 		
11 12	第5節 被服製作 【被服製作の基礎】	<ul style="list-style-type: none"> 被服製作の手順を理解する。手づくりを部分的に加えることや衣服を製作することが計画できるようにする。 被服製作に必要な基礎的な知識・技術を漏れなく身につける。 具体的には、縫うために必要な用具、布地の厚さと針と糸、縫いしろのしまつ、布地の幅と布地の表、しるしつけ・裁断、アイロンかけ、しつけなどを扱う。 		
	製作の実習	<ol style="list-style-type: none"> 高校生が楽しみながら製作できる日常着を扱う。 被服の材料・構成、縫製技術についての基本をマスターする。 <p>* 伝統文化の大切さに配慮した内容も取り入れる。 * 布の表と裏をはっきり色分けし、縫いしろのしまつをていねいに扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動作、運動にともなう体型の変化を知る。 個性を表現する。 身近な人へのプレゼントとして役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服製作実習 (作品の発表、レポート提出) 	

期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
後期	1	4章 消費を考える 第1節 私たちの暮らしと経済 1. 家庭経済のしくみ 2. 家庭の収入と支出 3. 家庭経済の設計	<ul style="list-style-type: none"> 家庭経済と国民経済とのかかわりを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。 経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響を及ぼしていることを理解する。 経済現象に対して、正確な知識や情報を収集し、主体的に判断し行動する態度を身につける。 家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 家庭の収入と支出をとおして家計の構造を理解する。 キャッシュレス化にとまない、家計管理の必要性がますます高まっていることについて理解する。 個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解し、家庭経済の設計を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ノート提出 定期考査
	2	第2節 消費者の権利と責任 1. 私たちの暮らしと情報	<ul style="list-style-type: none"> 近年、経済の発展にともなって産業構造が多様化するとともに、国際化により市場が海外にまで拡大されて、製造業者と消費者を結ぶ流通システムが発達してきたことを理解する。 生活情報の収集にはさまざまな方法があり、有用な情報を捨捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解させる。 ネットを利用した商取引においては、個人情報の漏えいや偽装など、注意すべき点が多いことも理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート プリント学習 定期考査
		2. 消費者の意思決定と責任	<ul style="list-style-type: none"> 消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。 消費行動は、生産者や行政に対して自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 	
		3. 消費者問題と消費者の保護	<ul style="list-style-type: none"> 大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 さまざまな消費者問題の発生のなかで、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 市場経済の発展のなかでトラブルも増加し、消費者主義の活動が展開されるなか、消費者保護のための法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 物資やサービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 	
		4. 売買契約とクレジット	<ul style="list-style-type: none"> 消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重におこなう意識と対応策を身につける。 消費者被害の事例をとおして、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。 契約に対する責任を自覚し、問題商法にあわないための注意、予防法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ディベート(教 p. 92～93 ケーススタディ)
	5. 契約トラブルとその対策			
	3	第3節 消費生活と資源・環境 1. 循環型社会をめざして 2. 環境にやさしい消費行動	<ul style="list-style-type: none"> 現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響を及ぼしていることについて考えさせる。 循環型社会を実現していくためには、私たち自身が消費行動について考え、環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 地域・企業・行政などの取り組みの現状を理解し、実践への意欲をもつようにする。 真の豊かさを考え、次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。 各自の消費行動と環境問題や資源・エネルギー問題との関連について理解する。 環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。 環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート プリント学習 定期考査